

## 和光市国際化推進懇話会委員委嘱式及び平成 18 年度第 3 回会議 会議録

■とき：平成 19 年 2 月 6 日（火） 午後 1 時 30 分から 3 時 00 分

■場所：市役所 3 階 庁議室

■出席者：田中明、山田浩人、原田豊造、宮嶋ひろみ、近長武治

■欠席者：武末寛子、山崎秀雄、対馬聡一郎、藤田雅紀、竹谷るみ子

■傍聴者：1 名

■事務局：牧野課長、河野課長補佐、亀井統括主査、山口主事、後藤国際交流推進員

■配布資料

《当日配布資料》

平成 18 年度第 3 回和光市国際化推進懇話会会議次第、名簿(H19. 02. 06 現在)

平成 18 年度和光市国際化推進懇話会中間報告(案)、外国籍市民と市長の懇談会のチラシ

**事務局**：定刻になったので、只今から平成 18 年度第 3 回和光市国際化推進懇話会会議を開催する。まず、事務局より本日欠席委員について報告させていただく。和光市小中学校長会の藤田委員、和光国際高校の対馬委員、理化学研究所の武末委員より欠席の連絡をいただいている。

続いて、委員の変更があったので報告する。平成 19 年 1 月 16 日付けで寺本孝子さんの委員辞退の申し出をいただいた。寺本さんに代わり、本日ご出席いただいている近長さんが当懇話会の委員になられるというお申し出もいただいた。これに伴い、本日近長さんの委嘱式をさせていただく。

ただいまより、委員委嘱式を開催する。本日は、市長が別の公務で出席できないため、代理として企画部人権文化課長の牧野より委嘱書をお渡しする。

**【委員委嘱式】**〔牧野課長より、近長委員へ委嘱書を手渡す〕

**事務局**：それでは、今回初めての方もいらっしゃるのでは、皆様の簡単な自己紹介をしていただきたい。

〔各委員自己紹介〕

**事務局**：それでは引き続き、事務局の自己紹介をさせていただく。

〔事務局職員自己紹介〕

**事務局**：会議に入る前に配布の資料等の確認をさせていただく。

**事務局**：次第、新しい名簿の他、先日郵送した「平成 18 年度和光市国際化推進懇話会中間

報告（案）」を本日の資料1としていただき、資料2は外国籍市民と市長の懇談会のチラシとなっている。以上、確認していただきたい。

**事務局**：本会議は、市民参加条例第12条第4号により公開となっている。本日は、1名の傍聴者がいる。

本日、まだお見えになっていない方がいらっしゃるが、過半数である5名が出席されているので会議を始める。

それでは議事進行を会長に願います。

### 【平成18年度第3回和光市国際化推進懇話会会議】

**田中会長**：それでは、議事進行を務めさせていただく。「1 和光市国際化推進懇話会中間報告について（意見発表）」とあるが、平成18年度和光市国際化推進懇話会中間報告（案）について、事務局より説明を願う。

**事務局**：それでは、資料1の平成18年度和光市国際化推進懇話会中間報告（案）をご覧ください。これは、第2回会議後に皆様より提出いただいた意見書に基づき、事務局が作成したものである。

作成にあたっては、意見書が出揃った1月23日火曜日に打合せということで田中会長、山田副会長と事務局で、この案について検討した。

本日はこの（案）に対する皆様の意見をいただきたいと考えている。意見発表の方法として、まずは意見を全ていただき、その後どのように修正・変更するかについて話し合っただきたい。

皆様から出された意見は、パソコン上で打ち出し、それを見ながら議事を進めていただきたい。

**田中会長**：それでは、まず意見を全て出していただき、その後修正、変更等をしていくという説明だった。発表される方は挙手の上、何ページ目の何行目のどこかということも付け加えていただきたい。

**宮嶋委員**：2ページ15行目にある「外国人登録制度」というのは、住民票がある外国人全てに対して、ダイレクトメールのような形で送付することができるのか。窓口に行きに来た外国人のみにこの制度のことを知らせるのではなく、住民登録されている人全員に、このような登録制度が始まるということをダイレクトメールで知らせて、了承を得た方たちだけを登録することになるのか。

**田中会長**：ここで述べているのは、一番の課題である対外国人の情報提供について、情報提供のための登録制度の整備の検討ということであり、方法論というのは今後、検討すべき課題である。

**原田委員**：今の発言に関する質問。外国人は住民登録できないと聞いたが、住民登録は全

ての外国人がしているのか。

**事務局**：住民登録という形ではなく、外国人登録という方法で申請している。

**近長委員**：これは、個人情報保護との関係をどうするかという問題ではないか。的確な情報伝達のためには、宛先として住所・氏名などが必要だが、本人の了承がなければ、使えないわけである。外国人登録されていても、人権文化課がその情報を別の目的で使えない。この登録制度というのは、市役所からの情報が欲しいから、個人情報を使っても良いという了承を得るという意味であると思うが。名称の問題であるが、登録制度ではなく、情報提供のためのシステムとしたほうが、誰にもわかりやすいのではないか。

**田中会長**：他に何か意見はあるか。

**近長委員**：冒頭の「はじめに」のパラグラフは、この中間報告の基本的な視点なので重要である。原案では、外国人市民へのサービスだけを書いているが、もっと広い視野が必要である。例えば、和光市に住んでいる外国人の持っているいろいろなパワーを和光市全体・一般市民のために十分に活かしていくという視点があっても良いと思う。

さらに、「国際化推進」を「市民が外国人を理解する」ということだけでよいのか。外国に住んでみると、その国の人には気づかないことに気づくことがあるはずだ。和光市に住んでいる外国人が、和光市のことをどのように見ているか、つまり外からの視線で自らの地域を見つめ、視野を広げていくことが必要であると思う。

**原田委員**：私は市民と外国人の国際交流を図らなければならないと思ってきた。和光市には観光資源や産業などホンダを除いて大きな会社がない。そのため、それらをベースにした交流が図れない。しかし、和光市は学術都市としての性格が非常に強い。理化学研究所や国立保健医療科学院などいろいろある。せっきくそのような機関があるのだから、それを主体に積極的に交流を図っていくべきである。いろいろなイベント、例えば講演会などができる。しかし、人を集めるのが大変である。私はNPOのようなものを作って・・・と考えるが、それに対して市がバックアップしてくれるのか、やってもいいのかを知りたい

**田中会長**：これは、「1 国際化推進のPR方法について」に含まれるのか、「2 和光市国際ネットワークの充実」に含まれるのか。先ほどの裾野を広げるということに関しても言えることであるが、どうすればよいかというのは、一つの方法論である。今回話し合いたいのは、中間報告の中で、市にこういった方向性を持って国際化を推進して欲しいということを提言するための話し合いの場である。方法論について突っ込んで話すのはこの会の趣旨ではない。

**近長委員**：第1回の会合で、市から「お金がかからないように」という注文があったようだが、全くお金を使わない行政はない。重要なのは、市の支出について、タックスペイヤーとしての市民の理解が得られるようにすることだと思う。

姉妹都市のロングビュー市に毎年中学生が海外派遣されているが、これは、意義がある

と思っている。しかし、以前、たしかパブリックコメントの中に「何故そのようなことに公金を使うのか」というような意見があったと思う。選ばれて派遣された生徒にとっては、若い時の貴重な思い出になるが、それだけのものではなく、もっと裾野の広がりのあるものにしなければならないのではないだろうか。

一つの提案としては、市立図書館にはロングビュー市からの寄贈図書がたくさんあり、ロングビュー市やアメリカの地理や歴史などが書かれている。これらの資料を、各中学校の生徒が英語の先生の指導により読み、その感想文を簡単な英文で書いてもらうようにする。併せて、和光市や日本の紹介文も簡単な英文で書くようにする。このような過程を通じて、ロングビュー市への派遣生徒を選考することにする。そうすれば、中学生レベルでの姉妹都市とのつながりや国際理解の裾野が広がると思う。また、中学生派遣に対する市民の理解も得られるのではないか。

**田中会長**：今、近長委員がおっしゃったように確かに中間報告の内容は抽象的であり、具体的ではない。施策・政策を進める上ではある程度、箇条書きになっているところも仕方がないと思う。あくまでも、中間報告としては、実行報告ではないので、方法論的なものは出せない。

**近長委員**：しかし、国際理解の裾野を広げることが必要なので、考え方だけでも議論しておくことは重要であると思う。

**田中会長**：他に内容等について意見はあるか。

ないようなので、先ほど何点か出た意見に対して話し合いをしたい。

まず、「はじめに」の部分で近長委員から意見が出た。

**近長委員**：この場で具体的に文章の修正案を出すことは、なかなかむずかしいような気がする。今は2%だからなんとかやっているけれど、これが3%、4%、群馬県の大泉町のように3割、4割となると大変なことになるぞ、という意味合いで書かれている。それに対して私が言ったのは、1.7%の外国人だから今なら余裕を持っていろいろできるということである。

**田中委員**：在住外国人等の知識などを活かすということもおっしゃられていたが、その部分を文章に入れても良い気がするが……。

**事務局**：先ほど近長委員がおっしゃった意見で、和光市内にあるいろいろな施設に多くの外国人がいるので、それら外国人の知識を活かすというような内容であった。外国人に対するサービスのみの記載ではなく、和光市らしさを活かした内容の文章も盛り込むという形ではどうか。この場で文章を考えるのは難しいと思うので、その旨を盛り込んだ文章を事務局で考え、案として提示したい。

**近長委員**：もう一度集まるのは大変なので、会長と副会長にお任せする形でよいのではないか。

田中会長：その方向でよろしいか。

近長委員：外国籍かどうか分からないが、日本人男性と国際結婚した外国人の女性も言葉や生活習慣などで困っている人が多いようである。この人たちのことも視野に入れなければいけないと思う。また、そのパワーも活かせるようにしたい。

さらに、和光市内の小学校や中学校には、20人程度の外国籍の生徒が在籍していると聞いている。この生徒が学校生活にうまく適応できるようにすることも重要であるし、さらにその両親にも「学校」というチャンネルで接触すれば、いろいろな面で活躍してもらえるのではないか。

いろんな方に、そのパワーを活かしてもらえれば、その方たちは和光市に住むことに生きがいを感じてくれるはずである。単に不便を感じさせないようにという視点だけでなく、その知識や能力を活かすという方向にすれば、和光市に住んでよかったということになると思う。

田中会長：それでは、「はじめに」の部分では、近長委員からの意見を取り入れ、和光らしさを含めた内容を事務局が考えるということによいか。

#### 【異議なし】

田中会長：続いて、2 ページ目の「情報提供のための外国人登録制度の整備の検討」の部分であるが、何か提案はあるか。

近長委員：外国人に的確な情報を伝えるという方法については、多くの自治体でも、頭を悩ませているようである。県の国際交流協会の会議でもいろいろと話が出たことがあり、例えば、「防災」という目的なら「外国人登録制度」の住所や氏名について協力してもらえ可能性があるのではないかという意見もあった。

いずれにしても別なシステムを検討し、そのシステムに登録された方には、「広報わこう」などの情報を届けるという枠組みを作ればいい。住所とかメールアドレスとかが登録されればいい。

原田委員：駅前で禁煙のティッシュを配っているように、駅前で個々に呼びかければ結構集まると思う。

近長委員：ここでポイントになるのは、正確な住所・氏名など宛先をもらうこと、どのようなチャンネルで届けるのか、何を届けるのかをはっきりさせることではないか。駅前などで配るのもいいかもしれないが、市役所としては、きちんとした方法で権威のある情報を伝えるべきである。具体的な問題は、市当局に詰めてもらうにしても、懇談会では、少なくとも「情報提供先と伝達方法をきちんと検討する」などは、書き込んでおいたほうがいいと思う。

もう一つは言葉で、何語で届けるかという問題がある。日本語教室に来ている人が図書館や公民館に置いてあるチラシを見て、これがよく読めないと言ってくることもある。日

本人にとっては普通の文章なのだが、外国人には理解されない文章が多い。現実には、日本に住む外国人と日本人との「共通語」は、「日本語」なので、在住外国人の立場に立って、分かりやすい日本語はどのようなものなのか。大切な研究課題のような気がする。

山田委員：「情報提供のための外国人登録制度の整備の検討」ということであるが、我々は会議の中で話し合っているから中身が分かるが、この名称は少し難しいかもしれない。

近長委員：どこか行政機関で先駆的にやっているところがあると思うのでそれを研究して…。

田中会長：「“情報提供のための”外国人登録制度の整備の検討」という提案自体は悪くない。

近長委員：外国人に対する情報伝達システムの構築のように、紛らわしくない名称にするべきである。整備と言っても、できるかどうか分からないが…。

田中会長：「外国人に対する情報伝達システムの整備の検討」ということか。

近長委員：あるいは、「情報伝達システム」の前に「的確な」を付け加えるなど。つまり、公民館にチラシを置くだけでは、本当に外国人の手に渡っているかどうか分からないので。

田中会長：では、「外国人に対する的確な情報伝達システムの整備の検討」ではどうか。

#### 【異議なし】

近長委員：下の文章で、「～登録制度があれば、登録者に対して必要な情報を等しく的確に伝達する～」とした方がより具体的でよい。

田中会長：「提供する」でなく、「伝達する」か？

近長委員：提供するでもよい。

田中会長：多様な生活スタイルを持った多くの人に、等しく情報を提供することは極めて難しい…。

近長委員：「難しい」ではなく、「重要である」としてはどうか。

近長委員：埼玉県内ではどの市町村が（国際化が）進んでいるのか。

原田委員：この間調べたら、川越市がいろいろ取り組んでいた。

事務局：他には、川口市、草加市、蕨市なども進んでいると思う。

近長委員：もし、先駆的にやっているところを十分に調査し、と入れてはどうか。

原田委員：あまり関係ないかも知れないが、姉妹都市がロングビュー市だけというのは少なすぎる。みんな4つも5つも姉妹都市がある。しかもアメリカが一つだ。近場には韓国も中国もあるわけだから、絶対に進めるべきだ。

田中会長：今は、「情報提供のための～」についての話し合いなので。

近長委員：「～重要である」として、「このため、先駆的な事例を十分調査の上、早急に成案を練る～」のようにしては？つまり、「～であれば」という文章は意味がない。

田中会長：それでは、いくつか言葉を入れた形で事務局で文章を…。

事務局：基本的には、「外国人登録」という言葉を使ってしまうと、既存の「外国人登録制度」とかぶってしまっていて分かりにくいいため表現を変えるということと、先ほど近長委員から出た意見で、市役所で持っている個人情報には目的外には利用できないが、生命に係る情報ということであれば、伝える必要がある。「安心・安全なまちでくらしをいただくために」という表現を使い、何らかの伝達方法を模索していく必要があるという言葉を入れるのはどうか。「安心・安全なまち」というのは、和光市総合振興計画後期基本計画の5つの重点項目の一つであり、これは外国人にとっても同じことである。そのような表現で、目的外使用にならないが、確実に情報を伝達できる方法を考えるということを経営局で考えて入れさせていただくということが良いか。

田中会長：そのような方向でお願いします。2番目の担当課の設置について、文章の変更等よろしいか。

【異議なし】

田中会長：3番目の和光市国際ネットワークの充実について、文章の変更等はよろしいか。

これは要するに、和光市内で国際交流活動に係る団体があり、和光市国際ネットワークというものがあるけれども、なかなか連携が取れないでいる。それを事務局が主導となって情報交換等を促してもらうことできっかけをつくり、その後で話し合いなどの機会を設けて充実させていくということであるが、これについてはよろしいか。

【異議なし】

田中会長：以上、皆様から出していただいたご意見について話し合ったが、ここで出た意見に沿って、再度事務局で文章等を検討し、中間報告としてまとめていただきたいと思う。

他に何かあるか。ないようなので「2 今後のスケジュール」に移る。事務局より説明願う。

事務局：今後のスケジュールについてお知らせする。まず、今回皆様からいただいた意見に基づいて、中間報告(案)を修正し、この修正後のものを正式な中間報告とさせていただく。今後のスケジュールとして、3月中に会長・副会長から、市長へこの報告書を提出していただくことになる。日程については、本日会議後に会長・副会長と調整させていただく。また、平成18年度中の会議は全て終了となるので、次回の会議は平成19年度4月以降となる。平成19年度第1回会議については、未定であるため、皆様には決定しだい早めに連絡させていただく。

田中会長：今、説明があったとおり、3月中に副会長とともに報告書を提出する。これで、平成18年度の会議については終了ということになる。

また、来年度は未定ということで、日程等詳細は後日連絡をいただけるということだが、何かご質問はあるか。ないようなので、事務局、「3 その他」でなにかあるか。

事務局：資料2をご覧ください。これは、「外国籍市民と市長の懇談会」の募集チラシ

である。10月に中止になってしまった懇談会を3月24日土曜日に開催することが決定した。現在、参加していただける外国人を募集しているが、ぜひ参加者募集にご協力いただきたく、お話をさせていただいた。

現在、このチラシは各公民館、図書館、もくれんハウス、理研さんに設置させていただいているが、和光国際交流会さんとMama&Kid's Club Wakoさんに日本語教室や集まりの際に外国人の方々にご周知していただけるようお願いしてある。知り合いの外国人など、ぜひ誘っていただきたい。チラシは用意してあるので、会議後にお渡しさせていただく。

**近長委員**：このチラシに関連して意見がある。今回は、チラシも見やすく懇談のテーマも「和光市の印象を教えてください」、「あなたの出身国のことを教えてください」ということで大変分かりやすい、やわらかい。言葉で希望を言うと、中国語や韓国語もあればと思うが…。この市長との懇談会についてお願いがあるのだが、外国人にとって市長というのは滅多に会えない、大変位の高い人である。我々が外国に行ってもその市の市長と会うなんて考えられない。参加者が市長と会うことはうれしいことであると思うので、ぜひ記念写真を、集合写真の他に市長と個々に写真を撮ってあげると喜ぶのではないかと思う。

**田中会長**：当日は広報担当職員も来るのか。

**事務局**：取材に来るかもしれない。

**田中会長**：市長と個々に写真撮影するということをぜひお願いしたい。

**近長委員**：もう一つ。せっかくよい企画なので、広報わこうのトップ記事にしてはどうか。市長が外国人と懇談している様子をトップページに載せ、別のページに懇談会で出てきた内容を掲載してはどうか。

**事務局**：懇話会からそのような要望があったということを担当課に伝えておくが、確約はできないことを了承していただきたい。

**田中会長**：募集人数が15人ということであるが、15人揃う予定は？

**事務局**：現在のところ、1名の方からお申し込みをいただいている。

**田中会長**：3月22日にマレーシア、タイ、中国から18人の交換留学生在が埼玉にやってきて、消防の関係で案内することになっている。できれば24日に個人で、5、6人ないしは、10人程度の留学生を連れて、遊びに行ってもよいか。

**事務局**：是非、来ていただきたい。

**山田委員**：ちなみに、このイベントで通訳はどうするのか。

**事務局**：もし英語で対応できる場合は、国際交流員が対応する。応募された外国人で、日本語が全く分からないし、英語も分からないという人がいれば、その都度ボランティアを探そうと思う。もちろん、スペイン語の場合はぜひ山田委員にお願いしたい。

**山田委員**：では、中国や韓国出身の参加者も、基本的には日本語と英語でということか。



事務局：片言でもよいので、できれば日本語で話をしたいと思う。

田中会長：他に何かあるか。 ないようなので、これで本日の会議を終了する。よって、これをもって議長の職を解かせていただく。長時間にわたり大変お疲れ様でした。